



参加お申し込み

シンポジウムへの参加をご希望される方は必要事項をご記入の上、下記お申し込み先までご連絡ください。なお、懇親会については参加費500円をいただきます。

●必要事項

1. 氏名
2. 所属
3. 電話番号
4. メールアドレス
5. 懇親会への参加の可否

●お申し込み先

筑波大学芸術系 齊藤泰嘉研究室 (担当: 井田)
 FAX: 029-853-2856
 E-mail: ida.madoka.gt@un.tsukuba.ac.jp

※E-mail でお申し込みの方は、件名に「病院のアートシンポジウム参加申し込み」と明記してください。



会場へのアクセス

つくばエクスプレス (TX) 「つくば駅」下車、つくばセンターバスターミナルよりバスで約10分

●6番のりばから「筑波大学循環 (右回り)」または「筑波大学中央」または「筑波大学病院」行き乗車、「筑波大学病院入口」下車、徒歩5分

●5番のりばから「石下駅」行き乗車、「筑波大学病院」下車、徒歩5分



お問い合わせ

筑波大学芸術系 齊藤泰嘉 (さいとう・やすよし) 研究室

TEL・FAX: 029-853-2856 / E-mail: ida.madoka.gt@un.tsukuba.ac.jp (井田)

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院
University of Tsukuba Hospital

公益財団法人
筑波メディカルセンター
TSUKUBA Medical Center Foundation



大学から
文化力
POWER OF CULTURE



「けやきから生まれるいのち——病院のアートの芽」展 シンポジウム 病院のアートを育てるために

2014年1月29日 (水) 10:00~15:00 (受付 9:30~)

筑波大学附属病院けやき棟1階 けやきプラザ

参加無料

|主催| 病院のアートを育てる会議、筑波大学芸術系、筑波大学附属病院
 |後援| 筑波大学芸術系社会貢献推進室、筑波メディカルセンター
 |助成| 文化庁 平成25年度大学を活用した文化芸術支援推進事業

筑波大学で病院のアートが生まれて10年以上が経ちました。アートとデザインを多角的に学ぶ筑波大学芸術では、さまざまな分野の教員と学生が、大学附属病院と近隣の筑波メディカルセンターにて活動を展開してきました。

本シンポジウムでは、上記2つの病院の院長によるトークセッション、上記のアートプロジェクトを始動した蓮見孝氏、医療安全管理者であり病院におけるアートディレクターとして活動している山口悦子氏による講演を行ないます。

病院でのアートプロジェクトの実践が医療の視点からどのように評価されるのか、生き生きとした病院づくりを目指すためにアートは何を期待されているのか、その課題と目標は何か、について考えていきます。

【 パネラープロフィール 】



いがらしてつや
五十嵐徹也

筑波大学附属病院長。1973年、東京大学医学部卒。専門は内分泌代謝学。米国ハーバード大学で研究に従事後、東大分院、茨城県立中央病院を経て、2002年、筑波大学臨床医学系教授。国立大学病院初のPFIによる再開発計画を担当。なお、筑波大学附属病院は1976年に開院。県内唯一の大学附属病院・特定機能病院として、高度先進・急性期医療に特化しつつ、地域医療の中心的な役割を務める。病床数は800床。



じくやともあき
軸屋智昭

筑波メディカルセンター病院長。1981年、筑波大学医学専門学群卒。専門は心臓血管外科。米国テキサス州ベラー医科大学講師、筑波大学臨床医学系助教授を経て、2009年より筑波メディカルセンター病院長を務める。なお、筑波メディカルセンター病院は1985年に開院。以来、地域医療支援病院、救命救急センター、茨城県地域がんセンターなど地域の中核医療機関としての役割を担っている。病床数は413床。



はすみたかし
蓮見孝

札幌市立大学 理事長・学長、筑波大学名誉教授。1991年筑波大学芸術学系講師として赴任し、生産デザインコースにて教鞭をとる。2002年より筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター等を拠点に、アート・デザインによる療養環境改善に主眼を置いた医療支援活動を始める。2012年より現職として、デザイン学部と看護学部の連携を生かした大学運営に取り組み、2013年より、文科者COC事業「ウェルネス×協奏型地域の担い手育成「学び舎」事業」を推進している。



やまぐちえつこ
山口悦子

大阪市立大学医学部附属病院 医療安全管理部・副部長（専任安全管理者）。院内医療の改善活動推進会議・議長。2000年より、院内のアートプロジェクトに取り組み。アート活動の導入をTQM (Total Quality Management) / 医療の改善活動の一環と位置付け、医療の質・安全の向上における芸術の可能性を探索すべく、病院組織の学習と発達を研究テーマにアクションリサーチを展開している。

【 シンポジウム スケジュール 】

10:00

開会のことば

玉川信一（筑波大学芸術系教授、芸術系長）



10:05

トークセッション

「医療が病院のアートに期待すること」

五十嵐徹也（筑波大学附属病院長）／軸屋智昭（筑波メディカルセンター病院長）

司会：貝島桃代（筑波大学芸術系准教授）

11:00

12:00

講演

「筑波大学で生まれ育った病院のアート～いち輪の花を咲かせた仲間たち～」

蓮見孝（札幌市立大学学長、筑波大学名誉教授）



昼休憩

13:30

14:30

講演

「医療の質と安全の視点から見た病院のアート活動」

山口悦子（大阪市立大学医学部附属病院 医療安全管理部 専任安全管理者）

14:45

閉会のことば

15:00

終了

15:30

17:30

懇親会

